
紅い涙

モッサン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅い涙

【Zコード】

N5022M

【作者名】

モツサン

【あらすじ】

銀時がいつまでたっても帰って来ないという事を聞き、不審に思つた沖田。近藤や土方に訳を話し、協力して貰うことになった。銀時は一体何処に？

ブロロロロロ... キキツ

パトカーを止め窓から身を乗り出して沖田が聞いた。

「ヨオ、チヤイナと駄眼鏡。」

そんな所で何やつてんでイ?」

「銀ちゃんがケーキ買いに行つたきり帰つて来ないね。こここの鍵持つたまま出かけたから私達閉め出しヨ。」

「もうかれこれ一時間位待つてゐんですよ。」

「へエ、旦那が。… そうだ、帰つて来ねエんだつたら屯所来やすか
イ？ そんな所にずっと居たら風邪引いちまうゼイ」

「マジでかー！行くアルー！な、新八！」

「良いんですか？」

「良いと思いやすよ…多分な。後ろ乗りなせ！」

「キヤツホオオウ！」

神楽と新八を後部座席に乗せて沖田は屯所へと向かつた。

屯所

「おい、総悟オ何でここにこいつ等が居んだよ?」

「あ、土方さんお邪魔してまーす」

「だから向でここに居んだよ……総悟、訳を説明しろ。」

「万事屋の旦那が帰つて来ねららしいんでさア。一時間も待つてゐるのに帰つて来ねエつてたんで、何かあつたのかと思いやしてねイトイあえず連れてきやした。」

「どうかで寄り道とかしてんじゃねえのか?いつものことだろ?」

「それは無いネ。だつて銀ちゃんは遅くなるなら必ず連絡入れてくれてたヨ。私達ずっと万事屋の前で待つてたけど電話のベルの音なんか一度も聞こえなかつたアル。」

「大丈夫でしょうか、銀さん……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5022m/>

紅い涙

2010年10月10日20時10分発行